



「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」における
これまでの取組と『アフターメダルプロジェクト』の実施について

2019年4月



「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」 これまでの環境省、小型家電リサイクルグループの取組

概要

- 使用済み小型家電をリサイクルして2020東京大会の入賞メダルを作製
- 2020組織委員会主催、環境省、東京都、NTTdocomo、日本環境衛生センター協力で2017年4月から2019年3月まで実施
- オリンピック・パラリンピックの機運醸成、オリンピック史上初、レガシーとして持続可能な社会につなげることが目的

取組体制

自治体

- 環境省から全国の自治体に協力を要請し、回収ボックス・ポスター等を配布。小型家電リサイクル制度に基づき実施。
- 1,741市区町村のうち、1,574市区町村が参画
(90.4%、人口割合では97%：平成31年2月15日現在)

小型家電リサイクル法に基づく認定事業者

全国54社が参加し、イベント回収、宅配便回収、直接回収

企業等と環境省が連携した体制

- トヨタ系ディーラー（全国約6,000店）（トヨタ自動車協力）
- 郵便局（全国約3,500局）（日本郵便協力）
- 家電量販店（全国3,247拠点）
(ヤマダ、コジマ、エディオン、ケース、ビックカメラetc)
- 東京メトロ34駅
- 全国の商工会（1,500カ所）
- 商工会議所
- 盛岡市の全て小・中学校
- 栃木県内の全ての小・中学校、高校、特別支援学校

回収方法



ボックス回収

イベント回収



自治体での
ピックアップ回収

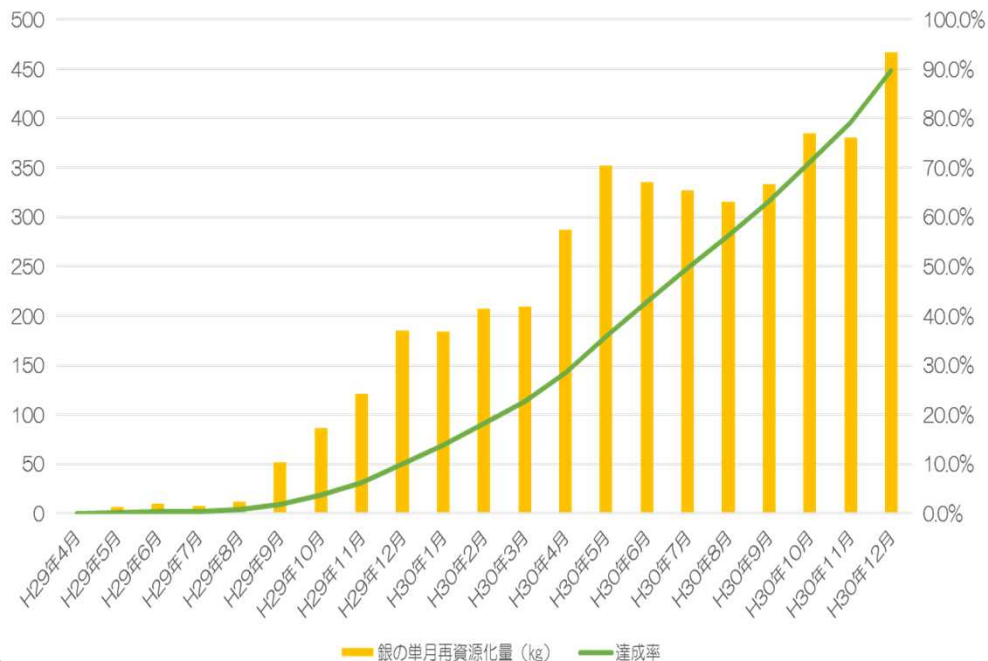
メダル作製に必要とされる量

メダル総数約5,000個

金：30kg 銀：4,100kg 銅：2,700kg（組織委員会発表）

回収量の推移

銀の再資源化量（単月）と達成率



環境省と自治体の連携による回収

全国16カ所で実施



北海道幌延町



高知県高知市



熊本県熊本市



愛知県豊田市

- 新潟県佐渡市
- 群馬県明和町
- 栃木県宇都宮市
- 千葉県山武市
- 愛媛県新居浜市

- 福島県福島市
- 神奈川県横浜市
- 岩手県盛岡市
- 福岡県大牟田市

等

メダルプロジェクトの成果をレガシーとして活用し、
「アフターメダルプロジェクト」の推進を実施！！

アフターメダルプロジェクトについて

アフターメダルプロジェクト概要

- 環境省では、メダルプロジェクトの成果をレガシーとして活用し、自治体、認定事業者等と連携した「アフターメダルプロジェクト」を実施。
- 取組を行う自治体等を支援するため、環境省としては、追加の回収ボックス提供、広報物品配布、普及イベント開催時の支援等を実施。
- 4月以降、下記のような継続した小型家電リサイクルの取組を実施。
- その他、環境省と関係者が連携した普及・回収促進イベントの開催を予定。



スペシャルオリンピックスと連携した回収の例

取組事例	取組方法
スペシャルオリンピックスと連携した回収	東京2020大会でのメダルプロジェクトに参加していただいたことを踏まえて、知的障がい者のスポーツ推進を目的に開催されるスペシャルオリンピックスを支援することで、社会的価値を持つリサイクル活動として継続的な取組を図る。
地域のスポーツ大会等での利用	自治体等で開催されるスポーツ大会等のメダル作製の原材料に利用。
ショッピングモール、小売店、交通機関、郵便局等での回収促進	多くの市民が集い、生活導線に立地する拠点での回収を促進することで、小型家電リサイクルの認知度を向上させるとともに、効率的な回収を図る。
教育機関での回収	教育機関で回収したものを教育備品購入の費用などに充てる。
障がい者などの働き口拡充	選別、解体処理を障がい者が行うことで地域の障がい者雇用の促進に繋げる。

メダルプロジェクトの成果をレガシーとして
小型家電リサイクル制度の普及促進に活用！



循環型社会の構築につなげていく！！